

月刊 インド



Monthly Journal of the Japan-India Association

公益財団法人 日 印 協 会 (日印間の政治・経済・文化交流に貢献して 111 年)



＜サンジャイ・パンダ インド共和国大使館首席公使ご夫妻 送別会
及び 駐セイシェル共和国インド大使ご就任 祝賀会 にて＞

2014 年 6 月 26 日

提供：佐伯健三氏

目次

1. モディ新政権と日印関係への影響…………… P. 3
2. シンポジウム「インド総選挙の総括と新政権の動向日印関係への影響」に参加して…………… P. 6
3. インドニュース(2014 年 6-7 月)…………… P. 8
4. イベント紹介…………… P. 15
5. 新刊書紹介…………… P. 18
6. 掲示板…………… P. 19

1. モディ新政権と日印関係への影響

P. M. Modi's New Administration and Japan-India Relations

日印協会代表理事・理事長 平林博

6月26日、インド下院総選挙で大勝したインド人民党(BJP)のナレンドラ・モディ首相が就任した。10年ぶりの政権交代であった。

「世界最大の民主主義」と言われるインドの総選挙は、大ごとである。人口が12億以上あるので、有権者も8億を優に超える。投票は、4月から5月にかけて、全国で9回に分けて行われた。このように大規模な総選挙が、曲がりなりにも秩序立って行われ、その結果を国民が粛々と受け容れるところに、インド民主主義の成熟度が見て取れるのである。

2004年以来、2期10年(インドの下院の任期は5年)続いた国民会議派(कांग्रेस) 中心の連立政権(統一進歩連盟 UPA)が大敗を喫した。野党第1党であったインド人民党(BJP)が、単独で、下院(545議席、ただし2議席は大統領の直接指名なので選挙の対象外)の過半数を上回る281議席を獲得した。連立与党11党の54議席と合わせると、与党は下院で圧倒的な多数となった。



〈左から、筆者、アドバニ元内務大臣、八木大使〉

筆者は、1998年3月から2002年10月まで約4年8カ月、駐インド大使を務めたが、任期はBJP率いる国民民主連盟(NDA)政権とフルに重なった。A. B. バジパイ首相、閣内第2のL. K. アドバニ内務大臣などの指導者と親しく接した。外相となったスシュマ・スワラジ女史、財務大臣兼国防大臣兼企業大臣のアルン・ジャイトリー氏などが要職に就いたことを喜んでいる。とくに、スワラジ女史は通信大臣の職にあったが、筆者が毎年12月の主催した日本大使公邸での天皇誕生日などには、副大統領などともによく出席していただいたものだ。

筆者は、早速、6月初めに、日印協会を代表してデリーに飛んだ。アドバニ元内務大臣、アルン・ショウリー元民営化大臣、タルン・ヴィジェイ上院議員を含むBJPの要人やアシュラニ・クマール国民会議派上院議員(元科学技術大臣)などの政治家のほか、新政権で外交の第一線に当たるアジット・ドヴァル国家安全保障補佐官やスジャータ・シン外務次官(女性)などの高官に会ってきた。

BJPは、欧米ではヒンズー至上主義政党として警戒する向きもあるが、筆者は何となく親しみを感ずる。筆者のインド着任2カ月後の1998年5月に、BJP政権は突然核実験を行い、筆者は日本政府を代表して抗議をしたりODAを停止したりして苦労した。しかし、その後2年有余の修復過程でNDA政権は米国など欧州諸国との和解を達成し、日印関係も、2000年8月の森喜朗総理(現在、日印協会会長)の訪印と「日印グローバル・パートナーシップ」の樹立(その後、第1次安倍内閣のもとで「戦略的グローバル・パートナーシップ」に昇格)により、再度軌道に乗った。BJPは、親日的である。親日度は、国民会議派以上かもしれない。

BJPの大勝利は、1980年のBJP結党以来の快挙であるが、国民会議派の敵失もあった。マンモハン・シン首相率いるUPA政府は、最初の5年間は順調であったが、2期目に入ると経済改革にも消極的になり、長期政権は汚職も招いた。有権者の不満や飽きも誘った。国民会議派のプリンスとされ、シン首相の後継者とされたラフール・ガンジー副総裁(暗殺された故ラジブ・ガンジー首相とソニア現国民会議派総裁の長男)は、内閣

の要職にもつかず党務に専念したが、期待に反して同党は、全インドでたった 44 議席しか取れなかった。ネルー首相、インディラ・ガンジー首相、ラジブ・ガンジー首相と続いた栄光ある「ネルー・ガンジー王朝」を継承することはできず、その落日を印象付けてしまった。

モディ首相は、2001 年から今回の選挙直前まで、グジャラート州首相であった。Vibrant Gujarat (躍動するグジャラート州)の標語のもとで、インフラ作りや電力網の整備、外国企業の誘致など、経済政策で指導力を発揮した。タタ自動車による西ベンガル州での超小型自動車(ナノ)工場建設計画が頓挫するや、直ちにグジャラート州の州有地を提供し、また、スズキの第三工場の同州誘致を決めた。

モディ首相は、これまでの多くの首相と異なり、低いカースト階級、法律用語では「その他の後進カースト、Other Backward Caste」と称する階層の出身である。子供の頃は、街でお茶を売っていたよし。長ずるにつれヒンズー・ナショナリズムに共感を覚え、ヒンズー主義団体 RSS(民族奉仕団)に入会した。1985 年にはその政治ウイングである BJP に入って政治家となり、次第に頭角を現した。2001 年にグジャラート州の首相に就任した。

2002 年、グジャラート州において列車火災事故が発生し、巡礼帰りのヒンズー教徒約 60 人が亡くなり多数のけが人が出たが、これはイスラム教徒の襲撃によるものだと噂が流れ、過激なヒンズー教徒がイスラム教徒を襲った。モディ州首相は、その取り締まりを怠った、ひいては煽ったのではないかと批判を浴びた。筆者も、この事件には驚いたが、その後、インド国内の反 BJP 勢力や欧米諸国は、モディ首相の責任として厳しく追及した。米国や欧州諸国の一部は、モディ州首相に対する入国査証の発給を行わないことに決めたほどであった。

モディ首相は、総選挙の最中あちこちで遊説したが、グジャラート州での成功をインド全土に広げて経済振興を図ることを約束した。また、「最小の政府で最大のガバナンス」の標語を掲げて政治の刷新、公務員の削減、汚職追放などを訴えて、人心を掌握した。

モディ首相は、内閣の若返りを狙い、閣僚の年齢制限を 75 とした。これにより、BJP の長老を「敬して遠ざけた」のである。L. K. アドヴァニ元内務大臣、ジャスワント・シン元外務大臣、ヤスワント・シンハ元財務大臣、M. M. ジョシ元人的資源大臣などは、入閣しなかった。また、「最小の政府」かどうかかわからないが、閣内・閣外の閣僚を合わせて 46 人とし、前政権の 70 人から 3 分の 2 に減らした。閣内大臣のうち 4 人は、連立パートナーの 4 党から起用した。女性閣僚は 7 人。閣僚の平均年齢は約 58 歳。

モディ首相は、「最大のガバナンス」を実行すべく、早速閣僚に対し、各省におけるネポティズム人事の廃止、閣僚の家族や親戚の関係する企業への政府調達禁止を指示した。

では、新政権が日印関係に及ぼす影響は、どうであろうか。

インドは、全体として、日本を尊敬し日本人を高く評価する親日国である。政党は、右派から左派まで超党派で親日だ。

とくにモディ首相は、親日家として知られる。過去に、2度、グジャラート州首相として訪日している。モディ首相は、隣国ブータンとネパールを除いては、最初の域外訪問国としてわが国を優先する姿勢である。夏休み明けには訪日が期待される。

モディ首相の改革志向の経済政策は、アベノミクスをもじってモディノミクスと称され、インド内外の期待が大きい。BJPは、外交安全保障政策上、中国に対して国民会議派以上に厳しい認識を持っており、この点も日本にとって心強い。

敬虔なヒンズー教徒であるモディ首相は、わが国を仏教国であると認識し、日本との精神的つながりを重視する。仏教は、釈迦がかつてのバラモン教(現在のヒンズー教の原型)を改革したものであり、その教えには共通項が多いからである。インドは、日本人の資質を評価し、日本の協力によるインフラ建設、日本企業の対印進出、さらにアジアの平和と安定のための日印安全保障協力に期待するが、モディ首相にはその傾向が強い。

安倍総理とモディ首相はウマが合う。総選挙での圧倒的な勝利と国民的人気の点でも安倍政権と似ている。共に、下院(インドの Lok Sabha; 日本の衆議院)で圧倒的な多数を持っているが、上院(インドの Raja Sabha; 日本の参議院)では過半数には及ばず、いわゆるねじれ国会に直面している点も共通である。日印関係は、多くの考えを共有し、ともに長期政権を予想される両首相によって、さらなる高みに登ることを期待したい。

なお、安倍首相は、BJP 勝利の直後、モディ氏に電話で祝意を伝えた。その際、モディ氏は、森喜朗日印協会会長の消息を尋ね、一度お目にかかったが再会を楽しみにしていると述べた由。さらにモディ首相は、モディとモリは発音が似ていると冗談を述べて親しみを表した。この話を聞いた森会長は、早速モディ首相への親書を書き、デリーを訪問する筆者に託した。筆者は、さすがにモディ首相本人には会えなかったが、筆者の旧知であり、今般、筆頭の補佐官となったアジット・ドヴァル国家安全保障補佐官と首相府で面会し、森会長の親書をモディ首相に渡すように託した。

モディ首相は、9月初頭には訪日するが、日印協会は、日印友好議員連盟(会長は町村信孝衆議院議員、元外相、官房長官など)と共催で、歓迎会を行うのを楽しみにしている。

(了)

§ 日印協会会員の皆様へ §

日印協会では、モディ首相訪日に際し、日印協会と日印友好議員連盟との共催で、歓迎会を開催致します。会員の皆様には、日程等詳細が決まり次第、ご案内をお送り致します。参加ご希望の方は、ご案内をお読みの上、お申込み下さい。

なお、セキュリティの関係上、非会員の方のお申込みは受付いたしかねますので、ご友人・知人をお誘いなのは、ご遠慮下さい。

何卒ご理解ご協力賜りますようお願い申し上げます。

2 シンポジウム「インド総選挙の総括と新政権の動向—日印関係への影響」に参加して

Report of Symposium on India General Election

中央大学 総合政策学部政策科学科 3 年 湊和貴

去る 6 月 19 日（木）、14:00～17:00、大手町の経団連会館において、日印協会/経済広報センター/日印経済委員会の三団体共催により「インド総選挙の総括と新政権の動向—日印関係への影響」と題して、シンポジウムが行われた。私は、日印協会の学生スタッフとして参加させていただいた。このシンポジウムで私が感じたことを寄稿させていただく。

私はこういったシンポジウムに参加するのは初めての体験であった。まず驚かされたのは、インドに関心のある方がこれだけたくさんいるのだということであった。私は縁あってインドに関わる機会を多くいただいているが、私の身の回りでインドのことを言っても、「カレー?」くらいのイメージしか持たれないことが多く、最近政権交代したといった話にまで及ぶことは少ない。まだまだ日本とインドの距離感は遠いと感じさせられていたなか、インドの政治に興味があるというような人がたくさん集まるというその光景が、私には新鮮であった。当日は、受付開始時間よりも前から参加者が多く集まり、このシンポジウムに対する期待感がうかがえた。会が始まる頃には、250～260 名収容力のある会場はもう空いている席を探すのが困難なくらい埋まっていた。後で事務局の方にお聞きしたら、参加希望のかなりの方達をお断りせざるを得なかったのが残念だった、とのことであった。



〈祝辞を代読する平林理事長〉

日印協会森喜朗会長が所用のため来られない中、平林博理事長の開会の辞からシンポジウムは始まった。ディーパ・ゴパラン・ワドワ駐日インド大使も急用が発生し来られなくなり、平林理事長が祝辞を代読された。ワドワ大使の祝辞の中では、多数の日本人にインドの総選挙に関心がもたれたことに対する喜び、インドの民主主義が転換期を迎えていること、新政権の課題が述べられ、そして最後に、シンポジウムの成功を祈るという挨拶で締めくくられた。

今回のテーマは「インドの総選挙と政権交代」であった。インドに関する著名な講師の方々による第 1 セッションでは、皆様は配布資料も用意されパワーポイントも駆使、それぞれの視点・観点からの分析がされていた。最初の下川眞樹太外務省アジア大洋州局参事官が「インド総選挙分析及び新政権に関する評価」ということでご講演をされた。同講師の選挙分析は、数値や表を用い学生の自分にも理解しやすいものであった。その後 4 名のパネリストの方々が、皆さん判りやすく、順に講演をされた。南アジア研究者の佐藤宏氏は「新政権と国内政治の課題—マニフ

ェストから読み解く—」と題し、マニフェストの基本理念としては「経済成長」「強く一体のインド」「国を優先」である、と述べられていた。その中で印象に残ったのは、“P. M. モディ”の敵は“C. M. モディ?”という点であった。これはモディ首相(P. M.)が注意しなければいけないのは、一国の首相と州首相(C. M.)とは異なり、州首相としての成功例に甘んじてはならないという意味か。過去発言してきた内容が、自らが首相となって国を動かしていくときに妨げになる恐れがある、ということであろう。次の京都大学大学院アジア・



〈講演に聞き入る参加者〉

アフリカ地域研究研究科の堀本武功特任教授は「インド外交は何を目指すのか」と題し、インド外交の経緯、実用主義を強調していることやインド外交のマトリックス、モディ外交の方向性、そして日印関係の今後について講演された。続いて国際基督教大学近藤正規上級准教授は「インド総選挙の総括と新政権の動向―日印関係への影響」をテーマとして講演された。この中で、モディ首相のメディアを通じた選挙戦略が印象に残っている。フェイスブックや、ツイッターといった SNS を利用し支持者を広げ、YouTube に選挙動画を投稿し、有権者に近い位置で選挙活動を行ったことが選挙戦勝利の要因に上がっている。いまや、どんな手段を用いても露出する機会を増やしていくことこそが、選挙を勝ち抜くのに必要なことか、と私には感じられた。最後は Sun and Sands Group サンジーヴ・シンハ代表による講演で、「インドの民主主義政治推移：文化、統治、社会的発展の繋がり」と題し、同氏は、インドは独立後間もない 1951 年に民主主義を受け入れ、教育、メディア、透明性が年々強化されてきている。近年初等教育も大幅な改善がみられ、中産階級の拡大、より規律正しいライフスタイルの形成につながったと述べている。そういったところから、汚職への反発や、政府への期待の高まり、平等への期待の高まりから政権交代につながったと分析していた。

皆さまの講演をお聴きして、それぞれ着眼点は違っていたが、新政権に対しては、明るい目が向けられていたように思う。

コーヒブレイクを挟んだのち、平林理事長をモデレーターとして第 2 セッションのパネルディスカッションが開始、政経他幅広い分野に付き討論がなされた。同時に多数の質問が寄せられ、非常に盛り上がった時間となった。

質疑応答の時間の中で、私が印象に残ったこととして数点あり、一つは平林理事長がおっしゃっていた女性登用という点である。インドは外務大臣、外務次官、駐日大使がすべて女性なのだという。日本で内閣に女性が入っていても、そのポストの重要性からいうと、女性という観点からみてインドのほうが一歩リードという印象を受けた。もう一点は、モディ首相は中国と日本どちらを優先するのかという点だ。どちらを優先するかという点よりも、前任のシン首相は中国に気を遣っていたが、モディ首相は、自身の首相就任式にチベットのトップを招待したというところが興味深かった。つまり、政権が変わり、政治姿勢が変わったということを示すものだったということである。



質疑応答は終了予定時刻を延長して行われたが、それでもすべての質問を処理することは出来ず、最後に各講師が一言ずつコメントを述ベシンポジウムを締めくくった。終了後のアンケート結果は大変好評で、同時にもっと話を聞きたかったという声も多く、今回の会の盛況ぶりをうかがわせた。

私は本シンポジウムに参加し、大きな刺激をうけた。この体験を通して、感じたことを自身のインドの学習の糧とし、インドを広く周りに紹介していきたいと思う。

＜4 名のパネリストとモデレーター＞

左から佐藤先生、堀本先生、近藤先生、サンジーヴ代表＞

＜筆者紹介＞ 湊和貴（みなと・かずたか）



石川県出身。中央大学総合政策学部政策科学科 3 年在学中。

大学にて 1 年時よりヒンディー語を 3 年時からウルドゥー語も学び、インドを中心とした南アジア文化を研究する保坂俊司ゼミナールに所属する。

日印協会では 2014 年 5 月よりインターンシップ生として活動している。

3. インドニュース(2014 年 6-7 月)

News from India

◆◆◆◆ 2014 年 6 月分 ◆◆◆◆

I. 内政

6 月 2 日

- タイムズ・オブ・インディア(TOI)紙他によれば、2 日、インドで、第 29 番目の州となるテランガナ州が成立し、チャンドラセカール・ラオ・テランガナ民族会議(TRS)党首が初代同州首相に就任した。併せて、11 名の州政府大臣が任命され、州知事公邸にて就任式が行われた。

メモ:

テランガナ州政府の発足を以て、テランガナ地域における大統領令は解除された。また、新設テランガナ州となった地域を除くアンドラ・プラデシュ州の地域は、名称を引き続きアンドラ・プラデシュ州とする。8 日には、テルグデサム党(TDP)のチャンドラバブ・ナイドゥ党首が同州の首相に就任した。ナイドゥ氏は、現在 64 歳で、1995 年から 2004 年までの間、同州首相を務めた。テランガナ州の州都は、これまでのアンドラプラデシュ州の州都ハイデラバードであり、新アンドラプラデシュ州の州都はベンガル湾に面するブバネシュワールとなった。

6 月 3 日

- インド首相府発表及び各紙の報道によれば、3 日朝、ムンデ農村開発大臣(町・村自治大臣及び飲料水・衛生大臣を兼務)が死亡した。同相は、3 日早朝に、デリーからマハーラシュトラ州内の自らの選挙区に向かうべくインディラ・ガンディー国際空港に車で向かっていたところ、スピード違反で走ってきた乗用車に衝突され、死亡が確認された。

メモ:

同相は、インド人民党(BJP)内でも有数の低カーストクラスOBC(Other Backward Class)出身の指導者で、マハーラシュトラ州の BJP の重鎮。BJP の次期マハーラシュトラ州候補とも目されていた。

6 月 4 日

- 4 日、第 16 回国会第 1 回会期が開幕した。

6 月 4 日

- ヒンドウスタン・タイムズ(HT)紙他の報道によれば、4 日、ガドカリ道路交通相は、水資源省内に、ガンジス川再生局を新設し、「清潔なガンジス河のための国家事業」(National Mission for Clean Ganga)を実施する旨明らかにした。

6 月 6 日

- HT 紙他による報道によれば、6 日、インド連邦下院は、スミトラ・マハジャン下院議員(BJP)を議長に全会一致で選出した。

メモ:

マハジャン議員は、マディア・プラデシュ州選出(8期目)で、1998年から2004年にわたり、3つの政権下で、それぞれ、人的資源開発担当閣外大臣、コミュニケーション・情報・放送担当閣外大臣及び石油・天然ガス担当閣外大臣を務めた経験がある。

6月17日

●HT紙他の報道によれば、17日、ウッタル・プラデシュ州 B. L. ジョシ知事が辞職した。

6月23日

●HT紙他の報道によれば、23日、チャッティースガル州シェカール・ドゥット知事が辞職した。

メモ:

NDA政権は、UPA政権下で任命された州知事(注: 大統領、実際には内務大臣が任命)の辞職を促したい意向とされる。各州知事によれば、ゴスワミ内務次官が、「解雇リスト」に掲載されている州知事に対し、電話で辞職を促しているという。ジョシ州知事及びドゥット州知事の辞職は、同意向を受けてのものだと見られる。

6月24日

●24日、インド議会省は、予算国会を、7月7日から8月14日までの日程で開会する旨を発表した。

Ⅱ. 経済

6月3日

●インド準備銀行(RBI)は、3日、第二回隔月金融政策会合を開催し、政策金利の据え置きを発表した。

6月8日

●報道によれば、8日、マハーラシュトラ州チャバン首相出席の下、ムンバイ県の西郊外と東郊外を結ぶムンバイ初のムンバイ・メトロ1号線(12駅)の開通式が行われた。

メモ:

ムンバイ・メトロ1号線は、2006年にリライアンス社(株69%)、ムンバイ都市区開発公社(株26%)、仏企業(株5%)の合併により計画され、2008年に建設開始。ムンバイ・メトロ1号線開通当日だけで、24万人の通勤者がメトロを利用した。

6月24日

●24日付HT紙は、モディ政権が、強力に推し進める周辺国との連結性強化の一手として、インド北東部(マニプール州インパール)とミャンマー(マンダレー)を結ぶバス路線の運行開始を指示した旨報じた。

メモ:

同記事によれば、インド道路交通省の職員は、「モディ政権の誕生により、約2年間停滞していたプロジェクトが動き出した。これは両国間の関係を強化するのみならず、地域経済活動を促進するものである」と語った。

Ⅲ. 外交

6月3日

●3日、外務省報道官は、インド政府は、2日にファタハとハマス統一政府が樹立されたことを支持すると述べ、相互に受け入れ可能な政治的解決に向けて、パレスチナとイスラエルの対話が早期に再開されることを望むと発言した。

6月3日

●報道によれば、3日、オマーンのアブドゥラー外務担当相が、モディ政権発足後、初の外国要人による公式訪問としてインドを訪問し、モディ首相及びスワラージ外相と会談した。双方は、両国間の貿易・投資を拡大する方法等につき協議した。

6月9日

- 報道によれば、9日、ビスワル米國務次官補(南・中央アジア担当)が、インドを訪問し、シン次官と会談した。

6月8日

- インド外務省発表によれば、8日、王毅中国外交部長が、特使としてインドを訪問し、スワラージ外相と会談した。双方は、印中関係の長年の問題について包括的に議論した。双方は、両国関係に新たな内容を加える意思を有するとした一方、関係拡大にあたっては、相互のセンシティビティも尊重していくとした。また、双方は、本年中に少なくとも6回会談を行ない得る機会があることを確認した。

メモ:

インド外務省発表によれば、9日、王毅外交部長は、モディ首相を表敬し、中国がインド新政権との関係構築を重視しているとの習近平国家主席からのメッセージを口頭で伝達した。モディ首相は、本年中に習近平国家主席をインドに招待したい旨改めて伝えるとともに、李克強総理による中国への早期訪問の招待を承諾した。双方は、同訪問及びその他の会談・多国間サミットの機会での交流に関して、外交チャンネルを通じて必要な調整を行っていく。

6月15日～16日

- インド外務省発表によれば、15～16日、モディ首相は、就任以降の初の外遊先としてブータンを国賓として訪問した。スワラージ外務大臣、ドバル国家安全保障補佐官、シン外務次官らが同行した。モディ首相は、ブータン国王及び前国王に謁見したほか、トブゲー・ブータン首相と会談し、共同記者声明を発表した。また、モディ首相は、ブータン国会で演説を行った。

6月18日～19日

- 外務省発表及び報道によれば、18～19日、ロゴジン露副首相は、インドを訪問し、モディ首相と会談した。同副首相は、モディ首相にプーチン露大統領からのメッセージを伝達し、モディ首相は、プーチン大統領と会談するのを楽しみにしていると述べた。また、同副首相は、スワラージ外相とも会談し、二国間関係全般につき協議した。

6月18日

- 18日、インド外務省報道官は、建設業に従事するインド人40名が、モスールで誘拐されたと述べた。インド外務省は、イラク当局と連絡をとるとともに、レディ元イラク大使を派遣した。

6月25～27日

- 報道によれば、スワラージ外相は、バングラデシュを訪問し、26日、アリ外相と会談し、地域レベルでの政治・安全保障問題やエネルギー、貿易、水資源管理、人的交流及び文化交流について議論した。また、同外相は、同日、ハシナ首相を表敬した。

メモ:

スワラージ外相は、ハシナ首相を表敬し、ハシナ首相のインド訪問を求めるモディ首相発書簡を手交し、ハシナ首相は、バングラデシュ訪問を求めるモディ首相宛書簡を手渡した。ハシナ首相は、スワラージ外相に対して、地上国境線画定協定等について早急に解決するよう強調した他、地域の発展のために経済回廊の設置の必要性や水力発電計画におけるインド、ブータン、バングラデシュにおける3カ国協力の重要性も強調した。

6月26日～30日

- インド外務省発表によれば、26日～30日、アンサリ副大統領は中国を訪問し、李克強國務院総理との会談等を行った他、習近平国家主席及びテイン・セイン・ミャンマー大統領と共に、「平和5原則」60周年記念行事に出席した、
- 28日、アンサリ副大統領は、李総理と会談し、双方は、印中国境における平和と平穩の維持が、両国関係の繁栄にとって重要であることで一致した。また、インドにおける中国向け工業団地設立を含む、二国間貿易・投資の拡大方法につき協議するとともに、貿易赤字に取り組む必要性についても協議した。

メモ:

アンサリ副大統領訪中時に署名された成果文書は、以下のとおり。

- * インドにおける工業団地の協力に関する覚書。
- * 洪水期のブラフマプトラ川の水量データを中国側からインド側へ提供することに関する実施計画
- * 公務員の能力開発分野におけるコミュニケーション及び訓練協力に関する覚書

IV. 日印関係

6月3日

- 外務省発表によれば、3日、岸田外務大臣は、スワラージ新インド外相と電話会談を行い、岸田大臣から早い時期にインドを再度訪問したいと述べたのに対し、スワラージ外務大臣から心待ちにしている旨述べた。また、両外務大臣は、日・インド関係の更なる発展のため、今後、緊密に連携していくことを確認し、モディ・インド首相の訪日時期について、外交当局を通じた調整を進めていくことで一致した。

今月の注目点：「モディノミクス」が試される

一ヶ月に及ぶ選挙で圧倒的な勝利を収め、5月に就任したナレンドラ・モディ首相。国民が彼に最も期待するのは、明らかに、低迷するインド経済の復活である。一時は、中国とも並んで成長国としてもはやされたインドであるが、現在の国内総生産(GDP)成長率は5%以下に低迷し、インフレ率も8%以上と高い水準で政府を悩ませる。モディ首相は、選挙戦の際に、グジャラート州の失業率を低下させ、外国投資を多く呼び込んだという、自らのグジャラート州首相時代の実績を掲げ、インフレの抑制など経済の立て直しや汚職撲滅などを公約に掲げていた。そのアピールの効果もあって、最近、モディ首相の経済政策は「モディノミクス」と言われ、市場は既にその手腕に期待を高めている。インド株式市場の代表的な指数であるセンセックス指数は、6月中旬に、2014年初めから約20%もの上昇を記録した。

ただし、国民と市場の大きな期待を背景に発足したモディ政権の前に立ちちはだかる壁は大きい。もちろん、モディ首相が解決しなければならない高インフレ率やGDPの低迷や財政赤字などはそれ自体が大きな壁であるが、それらを解決するためには、まさにモディ首相が売りにしている実行力が必要となってくるであろう。グジャラート州において振るった手腕は、果たして国政においても発揮できるのか。インド経済を立て直す政策を実行するには、地方の古い体質とも戦う必要も出てくるだろう。インドでは、地方政府の権限が強いため、中央政府の長であるモディ首相は、各州政府との連携を余儀なくされる。現在、インド人民党(BJP)は、全州政府の2割程度しか政権を担っていない。今後、地方選挙が実施される度に、BJPが政権を担うことになれば、モディ首相も政策を実行しやすくなるだろう。また、下院では圧倒的過半数を取得したBJPではあるが、上院では未だに少数派であることを忘れてはならない。このねじれの状態もいずれ解消していく必要がある。

モディ首相が実行しようとしている「モディノミクス」のモメンタムを引き続き維持できるのか、まさにこれからのモディ首相の「実行力」にかかっている。

◆◆◆◆ 2014年7月分 ◆◆◆◆

I. 内政

7月9日

- 9日、インド人民党(BJP)全国理事会が開催され、アミット・シャー同党全国幹事による新総裁への就任が決定された。同党発表によれば、モディ首相は、就任を祝すと共に、同総裁の偉大な指導力の下、BJPは更に強くなるであろうとの自信を表明した。

メモ：各紙は次ぎのように論説した。

- * シャー氏の総裁就任の決め手は、約30年間もの間、グジャラート州においてモディ首相と共に活動してきた経験から、モディ首相の考え方を最もよく知っているということであろう。また、シャー新総裁の草の根レベルでの党活動の手腕に対する高評価も理由のひとつである。
- * シャー氏の総裁就任は、BJP内でグジャラート勢力が強まっている証拠である。長年、BJPでは、首相と党総裁には、基盤とする州が異なる人物を据えるのが不文律となっており、実際、バジパイ政権時に党総裁を務めた4名はいずれも、バジパイ首相とは異なる州に地盤を持っていた。また、それにより、首相と党総裁とは一定の緊張関係にあった。

7月12日

- 報道によれば、12日、モディ首相就任以降初のまとまった次官人事が行われ、通信省、産業省、都市開発省、女性子供省、繊維省、肥料省で、それぞれ新次官が就任した。

7月14日、15日

- 報道によれば、14日及び15日、インド電気通信規制庁(TRAI)規則を改正する法案が、上下両院で採択された。同法案は、同庁委員長経験者が、政府役職に就くことを禁止する現行規則の変更を認めるもので、モディ首相が望むミシュラ元委員長の首相府首席次官就任に関するもの。

メモ:

同法案の採択においては、 कांग्रेस党、左派諸派、庶民党(AAP)及び民族ジャナタ・ダル等の野党が反対した一方、アンナ・ドラビダ進歩連盟やビジュ・ジャナタ・ダル等の有力地域政党や कांग्रेस党に近い民族主義会議派(NCP)は支持。また、当初、同法案に反対していた全印草の根会議派(AITC)も、中央捜査局による事件調査を抱えていることもあってか、賛成に回った。

7月21日

- 報道によれば、21日、ケジリワル庶民党(AAP)党首は、ジュング・デリー準州知事に面会し、同準州議会再選挙の実施を再要請した。これに対し同準州知事は、他党が同準州において政権を成立させる意思があるか聴取した後、大統領に報告すると述べた。

7月21日

- タイムズ・オブ・インディア紙によれば、21日、モディ首相は、首相就任後初めてムンバイを訪問し、9月に予定されているオバマ米大統領との会談で原子力関係について議論されることを視野に、ムンバイにあるバーバー原子力研究センターを訪問した。

メモ:

同日、モディ首相は、「原子力庁は、2023年度までに、事業計画の範囲内で、原子力による発電量が現行の5,780MWから3倍の規模に拡大されることを期待している。他方、同計画を実施する上で、地元住民への影響を最大限注視していく必要がある。ジャイタプール原子力発電所建設計画なしでは、18,000MWの目標を達成することは困難である」と述べた。

7月23日

- 報道によれば、デリーにあるマハラーシュートラ州が運営する食堂で、17日、シブ・セナ所属の国会議員11名が、ラマダンのため断食中の食堂従業員に対し、強制的にチャパティを食べさせる事件が発生し、23日の上下両院では、 कांग्रेस党をはじめとする野党各党が同事件を非難した。

州知事の辞職と任命

メモ:

報道によれば、現政権は、前政権下で任命された州知事の辞職を促している模様であり、6月の3州知事の辞職(ナガランド州知事、ウッタル・プラデシュ州知事、チャッティースガル州知事)に次いで、7月、以下の州知事の人事異動があった。なお、ディクシット・ケララ州知事やサンカラナラヤナン・マハーラーシュートラ州知事は、辞任への圧力に抵抗している模様。

辞職: ナラヤナン西ベンガル州知事(3日)

ワンチョー・ゴア州知事(7日)

プルショタマン・トリプラ州知事(14日)

ベニアル・グジャラート州知事は、ミゾラム州知事へ異動(6日)

任命: ウッタル・プラデシュ州知事: ラム・ナイク氏(14日)

ナガランド州及びトリプラ州知事: パダマナバ・バラクリシュナ・アチャリヤ氏(14日)

チャッティースガル州知事: バルラムジ・ダス・タンドン氏(息子は同州のBJP代表)(14日)

西ベンガル州知事: ケシャリ・ナート・トリパティ氏(元BJP所属UP州議会議員)(14日)

グジャラート州知事: オーム・プラカシュ・コーリー氏(元BJPデリー代表)(14日)

ハリヤナ州知事: カプタン・シン・ソランキ氏(BJP上院議員)

Ⅱ. 経済

7月10日

- 各紙報道によれば、10日、ジェイトリー財務大臣は、今年度(2014-15)予算案を国会に提出し、財政演説を行った。ジェイトリー大臣は、演説の中で「我々は財政に規律を持たせる必要がある。財政規律は最も重要なものである」と述べるなど、財政規律の重要性を強調した。(その後、予算は、18日に下院で、30日に上院でそれぞれ採択された。)

メモ：

予算(歳出)の概要

歳出総額：17.9兆ルピー(対前年度改定後ベース比13%増)

内訳

非計画支出：12.2兆ルピー(対前年度比9%増)

内訳 利払い費：4.3兆ルピー

補助金：2.6兆ルピー(対前年度比で2%増)

国防費：2.3兆ルピー(対前年度比で12%増)

計画支出(インフラ整備費用など)：5.8兆ルピー(対前年度比21%増)

7月23日

- 報道によれば、23日、ガドカリ道路交通相は、インド商工会議所連盟(FICCI)主催行事の席上、土地収用が最低でも80%完了していない道路工事業業については着手しない旨発言した。

メモ：

報道によれば、今年1月に施行された土地収用新法に関し、ガドカリ都市開発相の指揮の下、現在同新法の改定に向けた動きが進められている。同新法の適用により、土地収用手続きが長期化及び煩雑化したところ、官民協力事業に係る土地収用について、同新法にある、土地収用に必要な土地保有者の合意条項を不適用とする、もしくは、合意率を現行の70%から50%に引き下げる等の改正を行い、土地収用手続きの簡易化を目指す。

7月24日

- ビジネス・スタンダード紙によれば、24日、保険セクターへの外資出資比率の26%から49%への引上げを可能とする保険法の改正について、閣議決定が行われた。この改正法案は、今予算国会にて審議される見込み。保険法改正法案は、外資出資比率の引上げに加えて、インド人による経営支配が条件とされている。専門家によると、外国人投資家による議決権の上限は26%に制限されないが、外国人投資家が経営権を支配する契約は認められない見通し。また、出資上限は、FDI(海外直接投資)及びFII(外国機関投資家)による投資の合計の上限が49%とされている。

メモ：

報道によれば、保険セクターの外資出資比率の引き上げは、約35億ドル(2,200億ルピー)の資金流入に繋がる可能性がある。保険会社各社は外資出資比率の引き上げを歓迎しているが、海外の機関投資家は、インド人による経営支配が何を意味するのか、また、海外投資家の議決権について制限が設けられるのかについてやや懸念している。

前 कांग्रेस 党政権においても外資出資比率の49%への引上げを行う保険法改正は閣議決定されていたが、2008年に上院に提出されて以降、承認を得ることができず保留状態になっていた。財務省筋によると、今回の保険法改正法案は8月4日に上院で審議される見込み。 कांग्रेस 党が反対に回る可能性がある中、政府は同法案の成立に腐心している。政府は、4日の週に上院を通過できなければ、両院合同会議の開催も辞さない構え。

Ⅲ. 外交

7月8日

- 8日付インド外務省及び財務省の発表によれば、ヘーグ英外相及びオズボーン同財相が訪印し、モディ首相を表敬した他、それぞれ外相会談及び財相会談を実施した。モディ首相表敬においては、英側からキャメロン英首相からの英国訪問の招待が伝えられた。外相会談においては、経済連携、安全保障及び人的交流等について協議された。また財相会談では、英国が、インドのインフラ・プロジェクトを支援するために英国輸出金融から10億ポンドの融資限度を提供することが表明された。

7月15日

- 15日、インド首相府は、ブラジルで行われたモディ首相と習近平国家主席との会談につき発表した。モディ首相は、第6回 BRICS 会合の前日である15日、ブラジルのフォルタレザに到着後すぐに習近平国家主席と会談した。会談は、モディ首相にとって初の中国の首脳レベルとの対話であり、80分間に及んだ。会談の中で、両首脳は、国境問題の解決策を見出す必要性を強調した他、二国間関係について協議した。
- 16日、インド首相府は、ブラジルで行われたモディ首相とプーチン露大統領との会談につき発表した。15日、ブラジルのフォルタレザにて、プーチン露大統領と会談し、今後数年間に渡るインド・露関係の大胆なビジョンとロードマップを作成する機会として、2014年12月にデリーで開催される年次首脳会談を楽しみにしていると述べた。

7月16日

- 17日、インド首相府は、ブラジルで行われたモディ首相とズマ南ア大統領との会談につき発表した。16日、モディ首相は、ブラジリアにて、ズマ南ア大統領と会談し、会談の中で両首脳は、二国間関係を強化し、両国の国益と世界全体の発展を促進するため、国際的な場で密接に協力していくことを誓った。

7月17日

- 17日、インド首相府は、モディ首相がブラジルで開催された BRICS 首脳会議を終えデリーに戻る途中でフランクフルトに到着した際に、メルケル独首相と電話会談を行ったことにつき発表した。会談の中で、モディ首相は、インドはドイツを非常に重要なパートナーと評価しており、二国間の戦略的パートナーシップを強化、深化すべく、緊密に協力したいと伝えた他、メルケル首相に対し、第3回インド・独政府間協議に向け、2015年にインドを訪問するよう求めた。メルケル首相は、モディ首相に対し、二国間訪問として、いつでもドイツを訪問してほしい旨述べた。

7月25日～27日

- インド政府発表によれば、スワラージ外相は、25日から27日まで、ネパールを公式訪問した。両国外相を共同議長として、23年ぶりに第3回合同委員会が開催された。スワラージ外相は、ヤダブ大統領やコイラ首相を表敬した。

メモ:

ネパール・インド合同委員会は、1987年に発足した外相レベルの会合であるが、1991年の開催を最後に実施されていなかった。本年1月にギミレ・ネパール外相(当時)が訪印した際に、同委員会を含む二国間協議の見直しに合意した。

IV. 日印関係

7月7日

- 7日付HT紙は、日本政府の青少年交流事業(JENESYS2.0)にインド人青年が参加し、東京と群馬を訪れたと報じ、参加国の青年が、日本ブランドへの理解と関心を深め、日本的な価値を学ぶという目的を達成したと評価した。

今月の注目点：新政権が初の予算

インドの財政年度は、4月始まりであり、次年度の予算案は例年2月頃に発表されるが、今年は下院総選挙があったため、2月の予算は暫定予算とされ、今回、新たに予算が編成された。新政権が編成する初めての予算ということで注目を集めた。

今回の予算は、基本的に現実路線といえる。歳出総額は、過去最高の約18兆ルピー(約30兆円)。ジェイトリー財務大臣は、今予算は、3～4年以内に、マクロ経済の安定と共に7～8%以上の持続的な成長を達成するための取組みの端緒に過ぎないと述べ、全てが今予算で実現すると期待すべきでないと強調するなど、現実路線を鮮明にした。今予算案の財政赤字を目標内に収め、財政規律に配慮する姿勢も示した。他方で、インフラ支出の重視(21%増)、国防費の優先配分、その他のモディ首相の重視する政策(高速鉄道、スマート・シティ、ガンジス川浄化等々)への配慮が目立っており、インフラ開発を重視する新政権色も出ている。また、対内直接投資(FDI)を促進するとの方針の下、保険及び防衛セクターに対する外資出資比率上限を現行の26%から49%に緩和することが明らかにされたことも、注目される。

4. イベント紹介 Japan-India Events

=◇ 最近のイベント ◇=

◆サンジャイ・パンダ インド共和国大使館首席公使ご夫妻送別会 及び セイシェル共和国インド大使ご就任 祝賀会

6月26日(木)午後6時から、在京インド大使館首席公使のサンジャイ・パンダ氏及び同令夫人に対する送別会が、千代田区永田町の憲政記念館で開かれました。

この送別会は、パンダ首席公使が在セイシェル共和国駐箚特命全権大使としてご栄転になるお祝いを兼ねて、日印協会、在日印度商工会議所(東京)、公益社団法人横浜印度商協会並びに日印経済委員会が共催したものです。

会場には、ワドワ大使、竹本直一衆議院議員、岸信夫衆議院議員、山口那津男公明党代表、西村

康稔衆議院議員等13名の国会議員を含む160名を超える方々が出席され、温厚・誠実なパンダ公使ご夫妻の日本における交友の広さを思わせるものとなりました。

送別会は、平林博日印協会理事長の司会により進められ、比良竜虎理事(横浜印度商協会理事長)の開会挨拶、平林理事長の挨拶に続いて、パンダ公使の返礼ご挨拶、ワドワ大使の乾杯と続いた後、比良理事から記念品として、「兜」が贈呈されました(表紙の写真をご参照下さい)。続いて、参会者は並べられた料理、飲み物を手にしながら、三々五々歓談に興じながら、楽しい一夕を過ごしていました。

パンダ公使はご挨拶の中で、日本での滞在は4年であったが、赴任前の2年間インド外務省において日本を担当していたので、日本とのお付き合いは計6年になる、特に思い出に残るものは、2013年12月の天皇・皇后両陛下のご訪印と、2014年1月の安倍総理の日本の総理大臣として初めてのインド共和国記念日行事への主賓としての参列であったと述べられた。3.11東日本大震災の際の日本人の対応振りから多くを学ぶことが出来た。4年間の日本滞在中、外務省はじめ関係省庁の方々から多くのご支援を賜ったことに感謝している。また、在任中3人の大使に仕えたがワドワ大使の下で最も長い勤務となった、等々日本滞在中の思い出を懐かしみながら述べていたのが印象的でした。

ワドワ大使は、乾杯のご挨拶の中で、日本勤務を望むインド人外交官は極めて多いが、日本を離れることを望む者は殆どいないのが、インド外務省としての悩みであると、ユーモアたっぷりに挨拶され、参会者の笑いを誘っていました。

末筆となりましたが、在セイシェル・インド大使としてのご活躍とご夫妻のご健勝とご発展をお祈り申し上げます。

◆前田専學博士 パドマ シュリ叙勲祝賀会

日印協会顧問である前田専學博士(公益財団法人中村元東方研究所理事長、東京大学名誉教授)は、本年4月26日に、インドの大統領官邸における叙勲式典に出席され、ムカジー大統領より、パドマ シュリ勲章並びに勲記を授与されました(P.16 写真左)。

7月24日(木)午後6時半から、インド大使館で公益財団法人中村元東方研究所主催による祝賀会が盛大に開かれ、前田博士のスピーチが披露されました。(P.16 写真右)

丸井浩中村元東方研究所常務理事・事務局長(本祝賀会実行委員長)の司会により進められた祝賀会には、ワドワ大使、国会議員3名を含む約170名の方々が列席されました。当協会からは、森喜朗会長より祝電を送り、平林理事長、比良理事が出席し、祝辞を述べました。



〈左から山口公明党代表、パンダ首席公使、
岸衆議院議員、ワドワ大使、竹本衆議院議員〉



(※写真提供; インド大使館)

=◇ 今後のイベント ◇=

◆マザー・テレサ展『愛は微笑みから…』開催中!!

マザー・テレサの活動を伝える写真展を各地で開催中です。いずれも入場無料です。

主催: 特定非営利活動法人フレンドシップ

〒134-0091 東京都江戸川区船堀 2-11-11 ☎ 03-3687-1333 FAX 03-3687-0777

E-mail info@npo.tv URL <http://npo.tv/>

☆8/13(水)~8/16(土)「栃木県総合文化センター」栃木県宇都宮市本町 1-8

<http://www.sobun-tochigi.jp/>

☆9/18(木)~9/20(土)「ホテル ペルヴェデーレ」和歌山県西牟婁郡すさみ町周参見 4857-3

<http://www.ikoi-w.com/>

☆9/28(日)~9/29(月)「浦安市民プラザ Wave101」千葉県浦安市入舟 1-4-1 ショッピングプラザ新浦安 4F

<http://www.urayasu-kousha.or.jp/wave101/>

☆10/5(日)~10/7(火)「中三デパート青森本店 8階美術工芸サロン」青森県青森市新町 1-7-1

<http://www.nakasan-dept.com/aomori/index.php>

☆10/13(月)~10/15(水)「札幌駅前通地下歩行空間(チ・カ・ホ) イベントスペース」北海道札幌市中央区北3条~大通

<http://www.sapporo-chikamichi.jp/>

※ 開催日、会場は変更になる場合があります。主催者のホームページ等でご確認下さい。

◆ART OF INDIA ミティラー美術館コレクション展 開催中!!

1982年に、新潟県の十日町の廃校となった小学校を利用して設立されたミティラー美術館は、ミティラー画やワルリー画を多く所蔵しています。

2004年の中越地震による被害を受け休館し、2006年に再度開館しました。中越地震から10年目という節目を迎え、復興祈願の思いと共に、ミティラー美術館の貴重なコレクションを通じて、インドの文化や人々の暮らしを紹介します。

期 間: 2014年7月1日(火)~8月31日(日) 9:00~17:00 (発券は16:30まで)

休館日-毎週月曜日

※ 7月21日(月)、8月11日(月)は開館、7月22日(火)は休館

会 場: 長岡市栃尾美術館 新潟県長岡市上原町 1-13 ☎ 0258-53-6300

入 場: 大人-200円 / 高校・大学生-150円 / 小・中学生-100円 / 幼児-無料

※団体観覧料は50円引

主 催: 長岡市教育委員会・長岡市

問合先: 長岡市栃尾美術館

◆DIC(ディスカバー・インディア・クラブ) 第2回インド文化講演会

ヒンドゥー教の聖典『バグヴァード・ギーター』についての解説を行います。

講師: 須田アルナ(サオラ株式会社代表取締役)

演題: クリシュナ: 心を虜にする神の姿

日時: 2014年8月21日(木) 18:00~20:00 (受付 17:30)

会場: インド大使館・文化センター セミナー室(地下)

東京都千代田区九段南 2-2-11 地下鉄東西線・半蔵門線・都営新宿線「九段下」下車 徒歩 5 分

入場: 無料

主催: Discover India Club

申込: 先着 25 名(事前申し込みが必要です)

E-mail kanokogik2@tbm.t-com.ne.jp FAX 0466-34-0795(鹿子木)

◆第22回 ナマステ☆インディア 2014

今年のナマステ・インディアは、9月20・21日に開催されます。今回のナマステ・インディアでは、会場の特設テントにて、日印協会による講演会を行う予定です。詳細は、来月号でご案内致します。

日時: 2014年9月20日(土)~21日(日)

9月20日(土) 10:00~20:00 / 9月21日(日) 10:00~19:30

会場: 東京都代々木公園イベント広場 野外ステージ

入場: 無料

＝ 着任挨拶 ＝

公益財団法人 日印協会

常務理事兼事務局長 笹田勝義

この6月の役員会にて原常務理事が、また、7月には、青山事務局長が退任され、その後任として任命され、この度着任いたしました笹田勝義と申します。

退任されたご両名は長きに亘って、日印協会の維持、発展に粉骨砕身の姿勢でご尽力を頂きましたこと、心より敬意を表するとともに、深く感謝をいたします。

小職は、以前一年ほど日印協会事務局にお世話になったことがあり、多少の経験がありと自負しておりましたが、今やインドの政治、経済、社会は激変し、また、日本の社会も大きく変わりました。ニュースとして見るもの、聞くものすべてが新しく、再びインド情勢を理解するのに必死です。また、事務局の雰囲気も大きく変化しており、新しいシステムの導入やIT化の応用ですっかりと変わっております。

現在、参与として、里見駿介(三菱商事株式会社に在職中、インド・バングラディッシュ等、海外駐在を歴任)も新たに協会の運営に加わり、新体制が整いつつあります。

今後は、森会長と平林理事長の下、お二方が築かれた布石を継承しつつ、新しい、魅力ある日印協会へと改革していく所存です。

少しでも早くに事務局の仕事に慣れ、会員の皆様が望むインド情報をより適切に開示できるように努力をしてまいりますので、今まで以上のご支援とご鞭撻を頂きたく、宜しく願いいたします。

また、新しい日印協회를築くためには、会員皆様からユニークな提案が不可欠です。インド情報として面白いご提案があれば、是非お聞かせ下さい。

5. 新刊書紹介 Books Review

§ 『日本人が理解できない混沌(カオス)の国インド』

① 玉ねぎの価格で政権安定度がわかる! / ② 政権交代で9億人の巨大中間層が生まれる』



著者: 帝羽 ニルマラ 純子 / 発行: 日刊工業新聞社

価格: ①・②共に、1,600円+税

ISBN 978-4-526-07250-5 C3034 / ISBN 978-4-526-07272-7 C3034

インド生まれの著者ならではの内容。日印協会会員の方が、セットで5部(10冊)以上購入された場合は、特典があります。詳細は日印協会まで。

§ 「CNN english express 7月号」



発行: 朝日出版 / 定価: 1,440円

7月号は、“ビジネス会話力を上げる! 耳慣らし「アジア英語」”の特集でした。インドで初めて耳にした英語が、英語!?!と気が付くのに、時間がかかった方も多いのではないのでしょうか。インド英語についての解説と、CDによる実践もついています。インドに行く前に試してみても如何でしょうか。

§ 「NIHU Research Series of South Asia and Islam 4 イスラームとインドの多様性 / 6 イスラームとNGO」



編集: 4-長崎暢子・深見奈緒子 / 6-外川昌彦・子島進

ISBN 978-4-904039-72-4 / ISBN 978-4-904039-75-5

発行: 人間文化研究機構地域間連携研究の推進事業「南アジアとイスラーム」
京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科附属イスラーム地域研究センターの研究成果をまとめたものです。

§ 『チャンパの花』第9号



編集: インド児童文学の会

発行人: 鈴木 千歳

頒 価: 1,000円

今号にも多くのインド児童文学の翻訳、エッセイや創作が掲載されています。是非、手にとって頂きたい1冊です。

6. 掲示板 Notice

〈次回の『月刊インド』の発送日〉

次回発送は2014年9月12日(金)を予定しております。催事チラシの封入をお考えの方は、日程をご確認のうえ事務局までご連絡下さい。チラシを封入する際には、当該催事の協会会員に対する割引等特典の配慮をお願いしております。チラシ印刷の前にご一考下さい。

〈お詫び〉

『月刊インド』7-8月合併号の発送予定について、先月号では7月18日(金)のご案内致しましたが、諸般の事情により、8月8日(金)の発送に変更させて頂きました。お詫び申し上げます。

〈事務局夏季休業のお知らせ〉

日印協会事務局では、8月11日(月)より15日(金)までを、夏季休業とさせていただきます。お問合せ・ご連絡等は、休業期間をさけて下さいますよう、お願い申し上げます。

〈編集後記〉

去る7月31日付で日印協会事務局を退職いたしました。

ご縁を頂いて、2008年8月から6年間の勤務でしたが、この間、会員はもとより会員以外の方々より賜りました数多くのご厚意とご支援に対して、誌面をかりて心より篤く御礼申し上げます。

事務局を去りましても、日印協会を通じて皆様方との交流はこれまで以上に続けて参りたいと思っております。日印協会の各種のイベント等を通じて、皆様にお会い出来るのを大変楽しみにしております。

なお、後任は笹田勝義業務執行理事・常務理事・事務局長ですが、私に対して頂戴したと同様、又はそれ以上のご支援とご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。(記 青山 鑛一)



入会随時受付中



1903年、大隈重信、澁澤榮一らによって創設された日印協会は、これまで日印の相互理解の促進を目的として、両国の友好親善に関する事業を行ってきました。両国の友好関係を更に深める為にも、協会会員の獲得は重要な課題であると考えています。

インドに興味のあるお知り合いの方がいらっしゃいましたら、是非日印協会をアピールして下さい。ご希望により、当協会の活動に関する諸資料をお送りいたします。日印協会の活動に賛同して頂ける多くの法人会員・個人会員のご入会をお待ちしております。

☆年会費：個人 6,000円/口
学生 3,000円/口
一般法人会員 100,000円/口
特別法人会員 150,000円/口

☆入会金 個人 2,000円
学生 1,000円
法人 5,000円
(一般法人、特別法人会員共に)

本誌に掲載致します投稿等は、執筆者のご見解・ご意見であり、
当協会の見解を反映するものではありませんので、念のため申し添えます。

月刊インド Vol.111 No.6 (2014年8月8日発行) 発行者 平林 博 編集者 笹田 勝義
発行所 公益財団法人 日印協会
〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町2-1-14 スズコービル2階
Tel: 03-5640-7604 Fax: 03-5640-1576 E-mail: partner@japan-india.com
ホームページ: <http://www.japan-india.com/>

